

MAIL MAGAZINE

メールマガジン

新年快樂(あけましておめでとう)！！

JSC 貿易部ニュース 中国編



いつもお世話になります。毎号当メルマガに目を通して頂いてありがとうございます。

今回は、1月後半に訪問した厦門からホットなネタをお届けしたいと思います。

冒頭の写真はホテルに飾り付けられていた壁掛けで、「新年快樂」(あけましておめでとう)と書いています。赤と金色が目を引いて、いかにも中国っぽいデコレーションですね。ご存じのとおり今年の中国の旧正月(旧暦の1月1日)は2月5日であります。

厦門に滞在していたのが旧正月まであと2週間というタイミングでしたので、なにかお正月らしい雰囲気を感じられるかな?と街を散策してみたのですが、中華風の赤い提灯や新春セール(年貨、お餅や新しい服などを新年に向けて買う習慣)もほとんど見られませんでした。そういえば春聯(チュンリエン、家の戸口に縁起の良い言葉を書いて貼る習慣)も見かけなかったです。一緒に歩いていた中国人に「まだ時期的に早いのかな?」と尋ねたところ、「特に厦門では昔のような習慣は薄れているかもしれませんね。昔の春節は一年に一回の休みだったので盛大な雰囲気がありましたが、今ではゴールデンウィークや国慶節、あと若い人はバレンタインやクリスマスなどいろいろイベントがあるでしょう。

年末の買い物もみんなアリババとかのネットショッピングで済ませてしまうので、街中の店舗は寂しい感じですよ」とのこと。なるほどなあ〜、中国は変化が早いものなあ〜、と思わずにいられませんでした。最近では、中国のお正月の風物詩・爆竹も都市部では禁止みたいです。

近頃の厦門は、道路や鉄道が整備され街には緑が溢れています。ショッピングモールに入っている店舗もすごく洗練されていますし、スマホでのキャッシュレス決済と、年々感じる中国の変化ですが、今回感じた大きな変化の一つは、かつて我先にと絶対道を譲らなかった車が横断歩道の手前で止まったこと。人々の意識の面も少しずつ変化しているのだと感じました。

一方、墓石石材業界においては日中間で昔のままのビジネスが続いていますが、明らかに市場の変化、環境保護や労働意識の変化で大きな転換期にきているように思います。

そんな中、今回は建築関係の検品で建材を扱う工場にも訪問しましたが、いい刺激になりました。建材と墓石ではその事業内容や規模の差、扱う商品特性の違いはありますが、工場の設備・生産から検品までの流れ、管理体制、また建材を取り扱う日本の商社の多種多様な情報や新たな技術、取り組みは、普段の仕事だけでは感じることでできないものがありました。皆さんも、機会があれば建材の会社や他の業界を見てみることをお勧めします。

建築石材は、東京の好調な建設需要を背景にとっても忙しいとのこと。今回検品で訪れた工場も、大理石、御影石合わせ約300 石種を取扱っています。欧州産等の外材にも強く、レーザーガイド付切削機、ダボ穴あけ機等詳細加工の設備も充実しています。色目合わせ検品は標準で、建材大手の仕事も多く受注しています。

弊社は、温泉旅館の湯縁と床の製品おねがいしていましたが、修正や追加、組んだ時にわかる不備等、建材の注文でありがちな図面上の不明点への対応も早く、生産の段取りから検品がスムーズに行われている印象。

バブル期には高級な外材が良く使用されていたと昔話を聞きますが、近年それらの引き合いが増えつつあるようです。東京を中心とした建築バブルの影響もあると思いますが、これまでは単価面からG300 番台やG600 番台といった比較的安価な中国産が中心でしたが、それらの単価の上昇、一部の高級志向やこだわり志向といった市場の変化によって、外材や（国産含む）軟石、あるいはレザー仕上げといったこれまでとは少し趣向の違ったものの需要が増えているようです。



さて、最後に先月は黒御影を紹介いたしましたので、今回は新しい白御影のご紹介を・・・

大々的に宣伝するには少しタイミングが早いのですが、在庫量の限られたG603やG614に替わる石として期待を寄せていますので、メルマガ読者の皆様に一足早くその存在をお知らせしたいと思います。



まだ試作の段階ですが、石質も良く、長物も旧正月以降に続々と入荷するとのことで、詳しくは春節以降に続報をお届けできるかと思えます。

早く詳しい情報が知りたいという方は、弊社営業員までお問合せくださいませ！！

今月は以上です。また来月のメルマガもご期待ください。

2019/02/01